

BPW News Letter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



Japan

2004.11.30

Vol.79

特集

今、日本で女性の立場は？

[CONTENTS]

巻頭 “バックラッシュに……？”

「意思決定の場にいる女性たち」
～ BPW 会員の場合～

国際会議報告

・Global Women Summit 報告
・UNESCAP

会員の声・意見交換(3)
テーマ“BPWのゆくえーどう変革するか”
米沢アソシエーツ報告

2004 年第5 回役員会報告

各常任委員会から

UNCSW インターン(国際委員会)

ブロック研究会報告(企画委員会)

12%up を(組織委員会)

HP アンケート(広報委員会)

一人 10,000 円作戦(財務委員会)

BPW-student その後(ヤング委員会)

事務局からのご案内

本の紹介・キャンペーンお知らせ
事務局動向/編集後記

日本BPW連合会ニュースレター

発行人：平松昌子 広報委員会編集

日本BPW連合会事務局

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 3-5-12-116

TEL.03-3348-7644

FAX.03-3348-7648

E-mail=info@bpw-japan.com

ホームページ URL

http://www.bpw-japan.com

バックラッシュに、女性たちは？

日本BPW連合会会長 平松昌子

30代に入ったばかりで放送局の現場で仕事をしていたからものすごく忙しかった時、BPWとの関わりをもった。理由は労働基準法の改正問題だった。つまり、労基法の保護規定で就業の機会を大きく制約されていたからで、BPWは改正に前向きだった。当時の労働組合は改悪として反対していた。事態は動かず、BPWへの足も遠のいた。

事態が動き出したのは1975年の国際婦人年以降である。女子差別撤廃条約の批准、関係法規の改正、男女共同参画基本法の成立など、ご存じの通り。年数を重ねて暇ができたろうと、再びBPWの活動に誘い込まれた。出戻って最初にぶつかったのが北京会議だった。北京行動綱領が採択された。日本政府の対女性政策はこの綱領に則っている。

あれから10年、来年の国連女性の地位委員会はその成果と課題を討議する特別会議となる。多くの関連イベントも企画されるはずだが、BPWがどうするか未だ知らない。日本からは、インターンを送り出すことになる。

そうした流れに反するように、女性問題への風当たりが強くなってきた。つい最近まで女性問題といえば、オールマイティだったのに、「少子化の原因は女性の社会進出だ」とか、なんだとか。いわゆるバックラッシュだ。ところが、女性たちの反応がいまいちである。**なぜ？**

BPWへの関心も醒めているかも…とすら感じる。しかも、これは日本だけの現象ではないようだ。国際BPW連合会の会計からの悲鳴が届く。

なぜ、女性たちの問題なのに、女性たちが醒めてしまったのか！？先日来、ずーっと考えている。一つには、女性問題に関わる人が、女性問題専門家になりすぎたのではないか、と思うのだがどうだろう。関係の会議などでは「ジェンダー・フリーだとかジェンダー・イクオリティだとか…/女性のエンパワーメントとか…/メインストリーミングに…とか/リプロダクティブ・ヘルス・ライツの…とか」きわめてわかりにくい言葉が飛び交っているのだ。出戻り10年の私ですら、BPW連合会の会長として出席する会議で「言葉が理解できない」でいる。これでは、ひろく女性たちの共感を得ることなんかできるはずがないではないか。なぜ、もっと平たくいえないのだろう。たとえば「女性のエンパワーメント」なんて、「女性の自立」じゃいけないの？と尋ねたら、それは一部でしかないと返された。「自立しなさいよ！」「強くなんなさい！」「しっかりしなさい」そうやって子供たちを励ますこと、それが「エンパワーしなさいよ」の意味だと思うのだけど。

女性問題をもっと自分に関わる問題としてたぐり寄せる、そしてその解決に知恵を絞る、それを忘れると、組織も元気を失うのではないかしら。

意思・政策決定の場の現状 BPWメンバーは？

この3年間、私たちはBPWI活動テーマ“A World of Peace”に取り組んでいます。

女性の地位向上も、男女平等社会(共同参画社会)の実現も、平和でなければありえません。「平等なくして平和なし、平和なくして平等なし」という故市川房枝氏の主張は、女性運動の原点です。

戦争・紛争の被害者は、今や兵士ではなく、女性や子どもたちです。UNIFEMのノエリン・ヘイザー事務局長は「女性は紛争の犠牲者として泣くのではなく、紛争を防止し、和平実現・破壊からの復旧のために活動するときである」と述べ、そのためには女性が指導的な立場につく必要があります。

また、私たちは、**2004年**のサブテーマを「～職場・社会における平和実現を目指し、働く女性としての行動を～」としました。平和な世界のために女性が立ち上がるにも、わたしたち働く女性たちをとりまく環境は楽観を許さない現状があります。

そして、平和の実現にも、男女平等の実現にも、今の日本で鍵を握るのは、いかに多くの女性が政策決定の場に進出するかにかかっているようです。

2005年のサブテーマは「政治における平和実現」がkey wordです。そこで、BPWが意思・政策決定の場にどのように関わっているのか、現在、連合会に登録されている会員名簿から検索した結果を報告します。

各五十音順・敬称略 ()内は所属クラブ
(2004年6月に提出された名簿より抽出し、役員レベルで確認しました。間違いなどあれば、連合会事務局まで連絡をお願いします。)

- 現職議員および首長
国会議員 衆議院議員 : 岡崎トミ子(仙台)
 : 土井たか子(大阪)
地方自治体首長 千葉県知事 : 堂本暁子(東京)
地方自治体議会議員
 河内長野市議会議員 : 北原 満枝(大阪)
 仙台市議会議員 : 佐藤わか子(仙台)
 : 関根千賀子(仙台)
 江戸川区議会議員 : 土田アイ子(東京)
 宮城県議会議員 : 遊佐美由紀(仙台)
 山形県議会議員 : 和嶋 未希(山形)
 高松市議会議員 : 森谷 芳子(香川)
 江東区議会議員 : 山本香代子(関東)
 大阪市議会議員 : 山本 修子(大阪)
 堺市議会議員 : 山口 典子(堺)
 前職・元職の議員および首長
 元大阪府議会議員 : 平野クニ子(大阪)
 現職の行政機関管理職
 福岡市環境局長 : 植木とみ子(福岡)
 高松市健康福祉部長 : 岡内須美子(香川)
 北海道保健福祉部保健局長 : 片平美智子(札幌)
 北海道労働局雇用均等室長 : 帰山信子(札幌)
 前北海道副知事 : 佐々木亮子(札幌)
 福岡市市民局文化部長 : 高木俊子(福岡)
 和歌山県企画部長 : 高嶋洋子(和歌山)
 福岡県女性総合センター
 ・あすばる館長 : 高山史子(福岡)
 福岡市女性センター・
 アミカス館長 : 野口郁子(福岡)
 福岡県副知事 : 稗田 慶子(福岡)
 北九州市立
 男女共同参画センター長 : 三隅佳子(北九州)
【特記】元最高裁判所判事 : 高橋久子(東京)

お知らせ 第40回日本BPW連合会・仙台大会

会期:2005年2月26日(土)～27日(日) 会場:仙台国際ホテル TEL:022-268-1111

来年2月の連合会総会・仙台大会では、右記のように、「女性と政治」をテーマにしたシンポジウムを企画しました。

この機会に、各の例会等でも、ぜひ、この問題について話し合っ、仙台大会に意見を持ち寄って頂ければ...と思います。
このシンポジウムは一般公開です。



2005年2月26日(土) 13:15～14:45

パネルディスカッション

KEY WORD「女性・政治・リーダーシップ」

パネリスト

浅野 史郎・宮城県知事

名取はにわ・男女共同参画局長

和嶋 未希・山形県議会議員・BPW山形会員

コーディネーター

遠藤恵子(BPW仙台クラブ会員)

国際会議報告 1

女性グローバルサミット

会期：2004年5月27日～29日 (ソウル)

平松昌子(日本BPW連合会会長)ソウルで開催された女性会議(女性グローバル・サミット)に参加してきました。この会議は、毎年、世界各国の指導的立場にある、或いはと思っている女性が集まり、お互いに情報を交換し、商業チャンスを見つけ、新情報を提供するという形でおこなわれるものです。

第1回大会が1990年カナダのモントリオールで開かれた後ダブリン、台北、マイアミ、ロンドン、プエノサイレス、ヨハネスブルグ、香港、パルセロナ、そして昨年ラバト(モロッコ)が開催地でした。平松は、2001年の香港大会に出村会長と一緒に参加しました。大会規模は年々拡大しているようで、今年の参加国は、85ヶ国参加人数は900人と報道されています。

組織の中心がどのようなものか、今ひとつ明確さが欠けるのですが、アメリカの非営利組織グローバル・ウーマン委員会が中心となり資金を集め、大会を運営しているようです。毎年、国際運営委員会が組織され、20名いるその委員の一人がBPW会長・アントワネットです。つまり、BPWは、この組織を支援する団体の一つで、そんな背景もあって、アントワネット会長からの脅迫に近い呼びかけで、私がソウルに出かけたという次第です。今回のテーマは「指導力、技術力そして成長 *Leadership, Technology and Growth*」でした。

プログラムは滅茶苦茶一杯です。会議を仕切っているナビタットさんはフィリピン系アメリカ人で、どこをどうしているのか摩訶不思議な人ですが、何故かスポンサー探しがうまく、背は平松とどっちこちの丈なのに、話しまくりに、行動しまくりに、ものすごいエネルギーで圧倒されました。

5月27日

10:00 大会に参加する大臣クラスの懇談会
17:30 開会式 ソウル市長他(今回の大スポンサー)
20:00 市長主催歓迎会-古い宮殿・豪華なショーと食事

5月28日

8:00 朝食(名刺交換会)*
9:00 講演会
(1時間単位でテーマが異なり、講師は各2人)
12:30 昼食会(講演は27日の大臣懇談会報告)**
14:15 分科会(4会場で各会場90分単位で2セット)
17:30-19:30 ロビーで名刺交換会
20:00-22:00 表彰式および晩餐会

北京大会事務局長を務めた現アフリカ・議員連盟会長モンセラさんを表彰

5月29日

8:00 朝食(名刺交換会)*
9:30 分科会(4会場で各会場90分単位2セット)
12:30-14:00 昼食会・パネルディスカッション付き
14:30-17:30 全体会
(60分ずつ3セット・別テーマでパネルディスカッション)
18:00-19:00 閉会式(事業をしている若い4人を表彰)
21:00～深夜 お別れ会(講演付き、バンド付き)

すごさは、僅か2日+開会式と歓迎会という時間に、プログラムに名前が印刷されたスピーカー(司会も含む)は130名。これに対してどの会場でも最低2,3名は質問や意見を述べるために立ち上がっていたのですから、そのエネルギーは日本の会議風景からは想像を超えています。

朝食会、昼食会、晩餐会、お別れ会、全体会の会場は一つ。100個近い10人がけの丸テーブルが、ひろいホールを占拠。分科会は、それでも他の部屋が用意されていましたが、一つが終わればすぐ次の司会者が始めるといった具合。

*朝食会=既に、クロワッサンともう一つ、2ヶのパンを載せたお皿と数切れのフルーツを載せたお皿、コーヒーカップが配置され、テーブルの上には使用言語(英語、韓国語、スペイン語、フランス語)と翌日は、事業別(IT, 貿易、教育、保健・健康、何でも)のプレートが置かれており、その好きなところに勝手に着席して名刺の交換を。ここで、韓国の女子大生二人をゲット。(BPW-studentへの入会を勧誘しました。)

**昼食会=全体会の終了で、追い出され、15分後には食事のセットを完了するという早業。

討議されたテーマ=リーダーシップがテーマであり、大臣や経営者らの、家庭と仕事と育児、或いは技術の世界で女性としてリーダーシップを確保する体験や方法など、日本の発言者が少ないにも関わらず、日本の状況、例えば高齢化が今後世界的になる…という発言者は日本の例をあげるなど、かなり日本の実状が引き合いに出されていた。日本からはスピーカーとして、二人。読売新聞の編集委員(Yoshimi Nagamine)とIBMアジア太平洋地区技術マネージャ(Yukako Uchinaga)平松も、アントワネット会長が発言者となったWSで、意見を述べておきました。

ところで、会議本体とは関係ないのですが…、アントワネット会長との会話で、「スイスの大会に出来る限り参加してください!テーマはリーダーシップ。」「BPWスチ

ューデントの立ち上げ、良かったですね。但し、メールだけの交流だと、なかなか実体がつかめなくなってくる恐れがある。従って、いろいろな会合を企画する必要がある。～話を聞く会～相談する会～する会 などなど。B PW本体との係わりをしっかりとキープしておくように。」

エジプトBPWから、来年2月の国内大会は、世界から仲間を招いて盛大に行いたい。日本からも是非、参加して欲しい。ピラミッドに限らず、エジプトを理解できるような素晴らしい企画も入れるつもり。詳細は追って。」韓国は、この大会に女子大学生10人を選出して参加させていました。(多分・参加費は実行委員会負担でしょう)その女子大学生とコンタクトしました。日本にBPWスチューデントという組織が立ち上げられ、ネットを中心に情報交換をすすめているので、近日中に連絡するのでよろしくといいました。その他、インドの若い女性などからもコンタクトを求められていましたが、帰国後忙しさに追われて、そのままになっています。

国際会議報告 2 UNESCAP 北京行動綱領の見直し と施行に関する政府間会議

会期:2004年9月7日～10日タイ・バンコク

BPW-student 会員 沓名典子
(2003年度 UNCSW インターン派遣)

9月はじめ、バンコクでの国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)「北京行動綱領の見直しと施行についての政府間会議」(HLM)に、BPWIの一員として参加させてもらいました。国連による会議に出席するのは、今年3月に開かれた第48回国連女性の地位委員会(以下CSW)へのインターンシップに続き2度目ですが、今回も前回と同様、またはそれ以上に良い体験を得ることができたので、報告いたします。

【会議の概要】

今回の会議の趣旨は、来年が、1995年の第4回世界女性会議(北京会議)から10年、また2000年の第23回国連特別総会から5年目にあたるため、3月に予定されている第49回CSWにおいて北京行動綱領の実施を世界的に見直し、また評価する前段階として、地域ごとに集結し、準備を行うためであります。会議へは、アジア太平洋地域から45カ国、他地域から2カ国(カナダ、スウェーデン)、ユニフェムなどの国連機関、国際移住機関などの専門機関、そしてNGOがオブザーバーとして出席しました。(以上、ドラフト・レポートより)

【NGO ワークショップ】

会議に参加予定のNGOは、会議開催前日に行われるワークショップに出席するよう事前に連絡があったので、私も4日に現地入りし、6日のワークショップへ参加しました。そこでは、各国のNGOから約50名が、次の日から始まる会議に向け、NGO側の課題は何か、どのようにロビー活動を行うかなどについて話し合いました。

ロビー活動の戦略の1つとして、『BPFA and ICPD, NOW!!!』(今こそ北京行動綱領と国際人口・開発会議を!!)という文句をうたったシールを各々が貼ることが決定されました。その後、タイのNGO出身の女性が、翌朝の会議開始前までに用意したその対応の早さからは、NGOの団結力と意志の強さを肌で感じました。

【本会議】

9月7日から10日の本会議では、各国政府、国連機関、専門機関、NGOによる演説、サイドイベント、閣僚円卓会議(非公開)、そして最終日午後に報告書の審議と採択といった順に予定が組まれました。各国政府演説は、あらかじめ5分以内と命じられていたにもかかわらず、それ以上の時間を費やす国も多々あり、アジア太平洋地域の『多様性』を実感したほどです。

また、本会議の議長には、アフガニスタンの女性課題省出身のハビバ・サラビ氏が選出され、同国が、紛争後の復興の最中にあり、かつイスラム圏の国であるという事実を、国際社会が強く意識した結果だと読み取れました。さらに、CSW日本代表で、かつ今回の会議においても政府代表団長を務められた上智大学の目黒依子教授が、ラポルトゥールに選出され、最終日の報告書の審議と採択の際に議長を担われました。

北京行動綱領を再承認しない意向のアメリカ、自分たちは常に蚊帳の外だと主張する太平洋島諸国など、多くの国があらゆる角度から自国の利益を追求したため、議論は約4時間にも及びましたが、目黒議長はそれらの多様な声を非常に効率良くまとめられました。その姿から、意見を総括する術を学ぶと同時に、こういう各国の橋渡し役でこそ、比較的温和で正確さを好む日本人らしさを発揮すべき場ではないかという気もしました。

【ジェンダーとHIV/AIDSに関するサイドイベント】

サイドイベントは、パネルセッション(本会議場で全員が参加し、専門家による発表と質疑応答)とパラレルセッション(テーマごとに分かれたワークショップ)という形式で行われました。私は、事前にHIV/AIDSの問題に特に関心を抱いていたため、「ジェンダーとHIV/AIDS」に関する両セッションにおいて印象深かったことをここに記します。

北京会議以降10年間で、HIV/AIDSの感染者は世界的には倍増し、中でもアジア太平洋地域の拡大幅は非常に高いのが現状です。また、感染者の約4割が女性であること、そして彼女たちの大部分が夫やレギュラーパートナーから感染していること、地域内部でも特に太平洋諸島の感染率は依然として高いことが確認されました。こういった現状の根底にある問題として、以下の6点が挙げられます。第1に、HIVとAIDSの違いを把握しきれていないこと、第2にコンドームの使用率が低く、使用方法を教育する機会がないこと、第3に女性用コンドームは高価でかつ入手しづらいこと、第4に宗教や伝統がより重んじられていること、第5に若い世代への教育の難しさ、最後に教育省と保健省など縦割り行政により対処の難しさです。

これらの問題のほとんどが教育に関するものであったことから、今後の対処方法として「如何に教育するか」が最重要課題とされ、各国の政府代表およびNGOがそれぞれの体験を踏まえ、議論し合いました。例えば、インドでは宗教的指導者が会合を開き、教育の場を設けたこと、太平洋諸島では各国が協力し、教会で会議を開催したこと、フィリピンでは病院でHIV/AIDSを専門と

するカウンセラーを置いたことなどが、成果を挙げた例として発表されました。そして最終的には、地域全体が協力し、対処法を考え、実行していく必要性が10年前以上に増していることが確認され、議論が締めくくられました。

このセッションを通じ、HIV/AIDSという一見医学的な問題が、単にそうでないという点を再認識させられました。すなわち、HIV/AIDS自体は医学的な感染症ですが、その原因の根絶や感染者の救済といった措置に対しては、社会科学的な視点も含めて考慮されなければならないということです。このことは、今回のセッションのテーマが「ジェンダーとHIV/AIDS」であったことからも明白です。夫やレギュラーパートナーに「NO!!」と言えない女性を助け、HIV/AIDSが蔓延している場を排除し、感染者がケアされるべき場を提供し、子供たちに正しい教育を施す、こういった措置を如何に行うべきかが、現在深刻に問われているのです。以上を踏まえ、NGOにできることと言えば、HIV/AIDSを常に問題視し続けること、そして少しでも多くの人に正確な情報を伝達することが、極めて重要だと実感しました。

新企画 会員の声・意見交換

第3回テーマ “BPWのゆくえ、どう変革するか？” pending!

NLVol.78から始まった新企画です。今回は、「連合会あるいは各の将来へ向けて、どのような改革が必要か？」について、意見を募集しましたが、全くご意見がありませんでした。代わりに、米沢アソシエーツからの報告を掲載します。

「米沢アソシエーツ、その後・・・」

坂田紀子(BPW 米沢アソシエーツ)

米沢アソシエーツは、今年2月に4人で立ちあげました。チャリティバザー参加のほか、先日、女性の諸問題を語る懇談会を催しました。BPW 山形会員を含め、15人の女性が参加。7月の参議院選に立候補した舟山康江さん(民主党山形県総支部連合会副会長)を講師に迎え、政治・子育て・仕事などについて意見交換しました。

舟山さんは立候補の経緯を述べ、「当選できなかったが、選挙を通じ多くの出会いがあり、教えられた事が多い。今は子育てを中心に自営で仕事をしながら、様々な会合で勉強している」と話されました。

他の参加者からは、「子育て中は社会との関わりがなくなる」「主婦は無収入のために、負い目を感じる」「家族や夫の意見を聞かないと決断しにくい」「家にいるのなら料理をすべき、掃除をすべきと思われる」「働きたいが家にいてくれと言われている」など社会と関わりながら、個性と能力を生かす難しさを話していました。

保育所を増やし、子育て支援をする国や県に対して

は「女性が仕事をするために、保育所を増やせばいいということではない」と仕事のために、早くから保育所に預けるのには反対という声もでした。「子どもの情緒不安の懸念があり、教育には時間と愛情が必要、子どもが3歳までは仕事をせず、子育てに専念してほしい」、「女性にしかできない子育ての部分を、荷物を預けるような仕組みになりはしないか」という心配の声もあがりました。

ほとんどの女性が家事・育児・子育てを担っていますが、まだ社会の慣習や刷り込みも多いようです。性別に拘らず、男女一人ひとりが生き方を選択し、個性と能力が発揮できる社会の仕組みが必要のようです。懇談会后、4人の入会申し込みがありました。

連合会から：女性の自立・労働権と3歳児神話の葛藤・対立があるようです。それぞれが答えを見出し、BPWの目的を再確認されることを期待します。

次回のテーマは“2005年、私の抱負” 〆切 1月15日

送り先：メール Nobuk9016@aol.com または FAX095-822-9016 まで

2004年度第5回連合会役員会報告

2004年11月14日(日)10:00~16:00 於:連合会事務局

出席:平松・黒崎・長田・佐藤・高山・布柴・二ノ宮

欠席:木下

議題

1. 仙台大会について
 - ・準備・スケジュールの最終決定
 - ・物販および展示のよびかけ
 - ・ワークショップテーマ最終決定
 - ・名刺交換会(1日目シンポジウム後)
2. コンgressについて
 - ・BPWIからの資料確認
 - ・決議案の提出・・・ロゴの改正(連合会より)
 - ・規約改正案・・・特になし
 - ・BPWI役員への立候補者および推薦
連合会からは二ノ宮ヤング委員長を立候補・推薦予定
 - ・各への連絡・・・上記3項について通知・意見募集
3. UNCSW インターンについて・・・3名決定
 - ・今後の連絡などは二ノ宮ヤング委員長担当
4. 2005年度統一テーマについて
 - “A world of Peace” **世界の平和に向けて**
サブテーマ **～政治・女性・リーダーシップ～**
(仙台大会シンポジウムのテーマも同様)
5. 会計・財務関連
 - ・友の会の状況の確認・・・仙台で総会を開催する方向で
6. 委員会活動報告
 - 役員会までに提出されたのは、国際委員会・広報委員会・ヤング委員会
7. 規約改正について
 - 1) BPW-studentの会員資格について検討
 - 2) BPWIに準じ、ヤング委員長を役員会メンバーにする案
8. 組織拡大について・・・12%upクラブの表彰について
 - ・前回NL掲載の一人10,000円作戦の開始!
9. スピーチコンテストおよびブロック研究会について
 - ・各ブロック研究会への補助金の検討
 - ・関東・山梨ブロック研究会(11/20開催)
 - ・スピーチコンテスト未定ブロック、中部、近畿
10. 次々回総会の開催について
11. その他
 - 香川クラブへ災害お見舞い・・・役員会より

各常任委員会からのお知らせ

国際委員会より

UNCSW インターン決定!

今年度の国連女性の地位委員会へ派遣するインターンには下記の3名が選ばれました。

飛田 美樹さん

天沼 宏美さん

富永 奈奈さん

2005年国連女性の地位委員会は「北京+10」の区切りの年です。2回目の彼女たちも、海外のBPWメンバーなどと交流し、充実したNYの日々を送れるようにサポートしたいと思っています。

(委員長 布柴靖枝)



企画委員会より

BPW北海道・東北ブロック研究会報告

10月10日台風22号が去ったあとの山形へ。テーマは、「歴史から学ぶ、平和のために今、できること」。ヤングスピーチコンテストの後の記念講演は、<布が語る女性たちの願う平和> 講師は米沢女子短大名誉教授・日本家政学会・民族服装部会長 徳永幾久先生。会場には、徳永先生の収集された山形地方等の江戸・明治・大正・昭和、さらに東南アジア等の衣装、布、が展示され、それを手にしながら、ご自身の来し方をまじえて講演されました。

80歳を超える御歳とは思えぬ若々しい話し振り、内容の深さに改めて東北とりわけ山形の女性たちの平和を願い、一族の繁栄等、さらに驚いたことは、女性の主張を、男性を従えるがごとき柄や模様で表現方法に目からうろこが落ちる思いでお聞きしました。ストレートでものがいいにくい時代にあって、このような表現方法があったことを初めて認識しました。また、健やかな子どもの成長を願う産着、機能的な涎掛け、今このような衣装に海外の方が収集しているとも話されていました。徳永先生の講演を聞き、平和から女性の地位向上、児童虐待、伝統文化の継承などを考えさせられました。参加者の皆様それぞれに多くの示唆を与えてくれる講演だと思えます。

今、東北・北海道が野球でも全国から熱いまなざしが注がれています。参加者それぞれが個性豊かに輝くブロック研究会でした。長田副会長の「あの時の激励があったればこそ」との役員の方々の多くの言葉に、きっかけを作ってくださったよき先輩がいるBPWは、すごく誇り高い団体だと改めて思いました。

(委員長 土田アイ子)

組織委員会より

募集！ 12%up クラブ

BPW International のスローガンと同様に、私たち日本 BPW 連合会も 12%up の組織拡大を目標にしています。また、各ブロック研究会の月は、その地域の組織拡大強化月間です。

今年度の会員数から 12%以上の会員数が増加したクラブは、仙台大会で表彰をいたします。なお、その会員数は 2005 年 1 月 31 日までに納入された会費で確認いたします。すでに、会員が増えたクラブは、連合会事務局または組織委員長(牟礼範子:E-mail:norijyon@muj.boglobe.ne.jp)までご連絡下さい。

広報委員会より

あなたの ICT 度は？

会員限定版・ニュースレター号外をお読み頂いたでしょうか？財政難を乗り越えるためには、とにかく、経費節減と会員増です。その一つの対策として、ホームページの充実と活用が必至と考えています。



わが広報委員会では、連合会と各クラブの連携や、各間の情報交換のため、未だに、ニュースレターの作成・発行・印刷・郵送を続けております。会員の高齢化もささやかれる昨今ですが、年齢にかかわらず、ICT を活用されていらっしゃる会員もいらっしゃるようです。そこで、会員や各クラブでのインターネットの活用などについて、アンケート調査を

したいと考えております。(近日中に各クラブに発送する予定で、集計結果は仙台大会で報告します。)

会計および財務委員会より

一人 10,000 円作戦！スタート

会員限定版ニュースレターで紹介した上記作戦を開始します。各クラブから、下記の ABCDE のいずれかのコースを選んで、5名以上の会員の登録をお願いします。(登録用紙は、この NL と同時に発送します。)

Aコース 個人会員紹介:前期入会 10,000 円×1 名
後期入会 5,000 円×2 名

Bコース 友の会会員 2人紹介 (5,000 円×2)

Cコース 財務委員会販売品の購入
(Tシャツ、梅干し、そうめん・昆布等)

Dコース “金より知恵” - 資金難解決案の提案

Eコース “金よりカラダ” - 会計、財務委員長、ブロック財務委員等に立候補して財務活動の活発化を図る

ヤング BPW 委員会より

BPW-student その後

10月、コアメンバーの富永奈々さんのケニアでの活動報告会を開催しました。その後、少しずつ、メンバーや BPW 役員などの紹介で ML に加わる女子学生は増えており、東京近郊だけでなく、九州からのメンバーも参加し、現在 30 数名です。

内閣府編集『共同参画 21』連載“NGO・NPO の風”に記事掲載 No.15 November2004

男女共同参画の総合情報誌として発行されている同誌に、ヤングの活動を紹介しました。その一部を紹介します。

『世界へ羽ばたく女性たち～次代を担う人材の育成～

日本 BPW 連合会会長 平松 昌子
設立から半世紀、日本 BPW 連合会も、ここ数年、会員の高齢化と減少に頭を抱えてきました。「女性が働きやすい環境を」と活動してきた団体ですが、若い世代に入会を勧誘しても、「男女平等はもう常識、女性だけが集まって声高に訴えることは無意味」と断られてしまうのです。女性に対するバックラッシュが伝えられ、国連が発表する GEM(女性進出度指数)が 40 位前後と非常に低い評価にとどまっているにも関わらず、これくらいでいいと思うのでしょうか。もっと理想に近づく努力を放棄したのか…。いや、なかなか改善しない日本を見捨て、有能な女性たちが海外に出て活躍しているのも事実です。

そこで、「昔はこうだった」という議論を封じ、「これからの戦略は?」「あなたの将来像は何を求めるか」などをキーワードとして若い女性たちと手を携えて活動する方策を考えました。中略 日本にも将来、国際的な活動を望む若い女性たちがおり、その女性たちの育成が必要と考える私たちは、この視点で、次代を担う女性たちを育てるため、昨年

度、二つの事業をたちあげました。

ひとつは、毎年3月上旬、ニューヨークの国連本部で開催される「**国連女性の地位委員会への(学生を含む)若い女性をインターン派遣**」です。BPWは、国連の経済社会理事会对する一般協議資格をもっていることから、女性の地位委員会への参加(傍聴)資格を取得することが出来ます。各国の代表による議論を聞き、更に関連行事に参加することは、将来を考える若い女性にとって大きなメリットになると考えました。「若者に費用自己負担といっは集まるはずがない」とする意見もありましたが、国際連合会・会長のアドバイスが背中を押してくれました。「自分を磨く費用は自分で調達するのが当然」というものです。中略

もうひとつの事業は、「**ヤングスピーチコンテスト**」です。「私と職業(仕事)」をキーワードに 5 分間のスピーチで、いかに自分をアピールするかというものです。- 中略 第 1 回コンテストでは、出場者の若々しく、ひたむきなスピーチが、私たち会員の心に、忘れかけていた青春と力強い血を蘇らせ、大きな感動を与えてくれました。後略

この掲載誌をご希望の方は連合会までご連絡下さい。

【事務局からのご案内】

1月評議会、2月の仙台大会に向け各クラブへのご協力をいろいろとお願いしております。

✂切りと送付先を再確認の上、遵守いただきますようお願いいたします。

2004年度第2回評議会
2005年1月9日(日)13:00~
会場:東京八重洲
詳細連合会通知 No.116

BPW 連合会役員選挙関係
立候補または候補者推薦
✂切 12月17日
送付先:選挙管理委員長
詳細連合会通知 No.112

会報広告協力依頼
申し込み✂切: 12月17日
広告入稿✂切: 1月5日
送付先:連合会事務局
詳細連合会通知 No.115

仙台大会
2005年2月26日~27日
参加申込み✂切り:12月27日(月)
送付先:(株)国際ツーリスト仙台
詳細連合会通知 No.113

クラブ活動報告・ブロック研究会報告
手書き✂切り:12月22日
Eメール添付✂切り1月7日
送付先:黒崎副会長
詳細連合会通知 No.114

編集後記: 今年の夏から秋にかけては、水害・台風・地震と大変でした。被害にあわれた皆さん、復興はいかがでしょうか。特に香川クラブのみなさまには、ご自宅の浸水された方も多いため、立派にブロック研究会を開催して頂き、本当にご苦労さまでした。以前、平松会長がBPWIの環境委員長をされている時に、「世界的にも、自然災害での decision making に、もっと女性が関わらなければいけない！」と、言われていたのを思い出しました。

(K)

● **本の紹介**

前男女共同参画局長で、現在、昭和女子大学大学院教授の坂東眞理子さんが、BPW 東京クラブに入会予定。2003年、埼玉県知事選に出馬されたものの、思いがけない誤解・逆風にあい、念願叶わなかったことは記憶に新しい。彼女の34年間の公務員生活最後に取り組んだ課題について、逆風の今だからこそ・・・と書かれた本です。

入会に際し、彼女のご好意で売り上げの一部を連合会に寄付して頂くことになりました。クラブでまとめてご注文をお願いします。

『男女共同参画社会へ』 (勁草書房・発行)

著者:坂東眞理子

男女共同参画社会の実現にむけて今なにながら必要か。行政側の推進役を担ってきた著書が、長い道のりと逆風のなかで課題を明らかにする。

序章 より 男女共同参画については長い間にわたって、学者、NGO、ジャーナリストの立場から多くの本が書かれ、さまざまな意見が発表されている。一方、1975年以来、政府の中で、そして個人としても、このテーマに直接関わってきた私の眼から、日本の男女共同参画の政策がどのように意図され、行なわれてきたかを著すこともまた別の意味があると考え、この本にまとめてみようと思った。 (定価:2,520円)

● **最近のトピックス**

先日、憲法改正案がニュースになりました。その中では、詳細について触れられていませんでしたが、下記のような運動が展開されています。興味のあるでは、この問題をとりあげて活動の参考にしたり、地域の女性団体と連携してはいかがでしょうか。

STOP!
24条改悪

STOP! 憲法24条改悪キャンペーン

いよいよキックオフ!

**男女平等と個人の尊厳を
憲法から消させない!**

家族は大切!

戦争するの
に男女平等
はジャマ。

知っていますか? 「男女平等を定めた憲法24条を見直すべきだ」という声、自民党や右派の一部から出ています。「いまの日本は個人優先のいきすぎ。家族・共同体・国家への奉仕を義務づけるべきだ」というのです。でも考えてみてください。男女が平等でなく人権も認められない家族だったら、どんなに息苦しいか。改憲案は、現実の家族や国家のなかに存在している差別、抑圧、暴力を正当化し、力で押さえこもうとする試みなのです。

戦前の日本では、女性は無権利状態におかれ、家長の所有物にすぎませんでした。婚姻・家族を「男女の本質的平等と個人の尊厳に立脚すべき」と定めた日本国憲法第24条は、人権と平等を実現するための不可欠の基盤です。24条改悪のうごきを阻止するために、**STOP!憲法24条改悪キャンペーン**をスタートさせました。人権と平等のために行動する人たちの、ゆるやかなネットワークです。大きく広げていきましょう。

詳細はホームページで! <http://blog.livedoor.jp/savearticle24/>